

第51号

http://www.nisshiren.com/

あ〜す・れっく

日資連界報

日本再生資源事業協同組合連合会
 〒101-0061 千代田区三崎町2-21-1
 TEL 03(3263)9101
 発行人 上岡克己
 編集人 森岡伸志
 印刷 株式会社資源新報社

「ご挨拶」

活力溢れる日資連に 会長上岡克己



限切れにより個人消費が低迷するとの見方も強まっております。企業の景況感は大いに悪化しているなかにおいて、我々再生資源業界においては資源物の発生減少という、これまで経験したことのないような状況となっております。

しかし、過去を振り返ってみれば我々の業界は不況に強く、幾多の試練を乗り越えて来ました。「この程度の不況、何ら恐れるに足りず」の気概をもって立ち向かって行くにはありませぬか。この度はありませぬか。「魅力と活力溢れる日資連」を目指して取り組んで参る所存です。



資源循環体制の強化を

経済産業省産業技術環境局 リサイクル推進課課長 岡田 俊郎

平成23年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素より循環型経済社会の構築を目指す各種政策に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

21世紀の冒頭10年が経過しました。確かに、米国依存からの脱却は目指していかねばなりません。しかし、そのためには我々日本の覚悟とコストが必要であり、自分の国は自分で守るといふ当たり前の国家に生まれ変わらなければなりません。今年に必要な事は、その自覚であります。我々世代が本心に目覚めなければならぬと思っております。

第一に、資源の安定的供給関係の維持・強化の観点から、希少なものを中心に資源の有効利用とリサイクルの更なる推進を図ってまいります。

今後、国内外で、電気自動車用モーター、高性能蓄電池等のハイテク製品に取組んでまいります。

第二に、地球温暖化問題への対応を見据えながら、リサイクルの質の向上を念頭に置いた資源循環ネットワークの強化を図ってまいります。

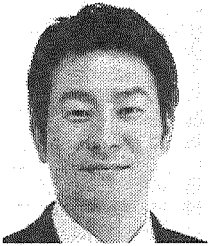
第三に、国際資源循環を視野に入れた、我が国のリサイクル・廃棄物処理産業の海外展開を支援してまいります。

我が国のリサイクル・廃棄物処理業にとっては、経済発展に伴いリサイクル・廃棄物処理関連産業マーケットが拡大することが予想されるアジア市場に取組んでまいります。

国内市場が成熟する中、我が国のリサイクル・廃棄物処理業にとっては、経済発展に伴いリサイクル・廃棄物処理関連産業マーケットが拡大することが予想されるアジア市場に取組んでまいります。

正常なリサイクル推進に努力

日資連特別顧問 秋元 司



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。昨年に行われた第22回参議院選挙では多くの皆様にお力添えを賜り誠に

ありがとうございます。しかしながら、ご期待に添える結果を出す事ができず、大変申し訳なく思っております。必ず再起を期して参りますので引き続きのご指導を宜しくお願い致します。

さて、我が国を取り巻く環境が良くなりません。円高、不況と経済問題だけでなく安全保障をおび

やかす所まで、外交の失敗が不安視されております。昨年の政権交代時の国民の期待は今、不安へと変化しております。戦後60年余り、日本は大きな戦争に巻き込まれる事なく経済活動に専念してきた結果、平和ボケがここにきて顕著に表れ、米国の同盟関係にヒビが入る所までになってしま

具体的には決然たる行動を起こして行かなければならぬ問題です。全国の組合員の皆様と緊密に連携し、リサイクル促進を通して地球環境保全に役立つ日資連を確立したいと考えております。

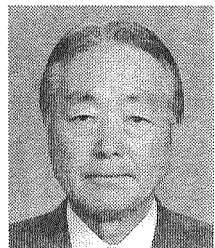
旧年に増して一層のご

協力をお願い致します。なお、最後にになりましたが、会員企業様の益々のご発展とご商売の繁昌を心よりご祈念申し上げます。年頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

品の普及拡大に連れてこれらに利用されるレアメタルの需要の拡大が見込まれる一方で海外からの供給にリスクが存在する中、リサイクルによるレアメタル安定供給確保の重要性が高まっています。経済産業省では、レアメタル代替材の開発、リサイクルを含むレアメタル使用量削減に関する技術の開発やレアメタルのリサイクル設備の増強に対する支援を行うとともに、事業者や市町村などが参加するレアメタル・リサイクルシステムの構築に向けた取り組みを進めます。

ジャパンプラ確立に向け

全国製紙原料商工組合連合会 理事長 栗原 正雄



新年明けましておめでとうございます。旧年中は引き続き厳しい経営環境が続くなか、組合員の皆様におかれては古紙業界の様々な問題点に対してその解決に向けて熱心に取り組まれ古紙業界の発展に寄与して頂きました事、誠にありがとうございます。

全原連の古紙の古紙近

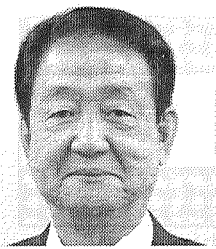
は古紙の履歴を明らかにすると共に商品化されたることになります。この事業の大きな目標のひとつであります。古紙品質安定対策も「古紙商品化適格事業所認定制度」「古紙リサイクルアドバンスイ認定制度」の進展とともに最終段階であります。古紙品質のジャパンプラントの確立に向けて本年はその第一歩を踏み出すことなるものと思っております。今年の春以降、先ず関東地区に於いてこのテストが行われるものと思っております。このテスト

た資源循環社会を実現するための努力が認められ、その代表として私が受け取ったものと思っております。これまでの皆様方の御指導、御支援に深く感謝申し上げます。現在、業界では行政回収古紙の高値入札問題、古紙の抜き取り行為の多発問題、仕入過当競争問題、国内古紙価格と国際マーケットとの格差問題等、難問が山積みしておりますが問題解決に向けて前進してまいります。

本年も皆様方と共に古紙リサイクルの持続的安定化を目指して頑張りたいと思っております。引き続き御支援を賜ります様お願い申し上げます。

地域活力の再生めざし

全国中小企業団体中央会会長 鶴田 欣也



平成23年の新春を迎え、お慶びを申し上げます。新たな年を迎えるにあたり、全国の中小企業の皆様並び組合等中小企業連携組織関係の皆様と謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国中央会の会長職を引き継ぎ、一年半が経過

しました。この間、プロック中央会の創立55周年記念式典には可能な限り出席し、会長をはじめ各地の中央会役員の皆様との対話に努めて参りました。また、昨年7月には、本会の初めての試みとして中小企業庁をはじめ関係各位のご協力をいただき、「中小企業団体夏期トップセミナー」を開催できましたことは、望外の幸せでありました。本セミナーを継続・発展させ、さらにトップ同士の対話を通じて、「開かれ

た中央会」を実現し、組合をはじめとする連携組織の発展に全力で取り組む所存であります。

昨年を振り返りますと、平成7年以来の高騰、レアースに代表される資源高、食糧をはじめとする各種原材料価格の上昇、中国リスクの再認識などの外的要因に加え、エコカー補助金の終了による内需の反動減などにより、再び中小企業の景況は先行き警戒が必要となる厳しい状況に到り、新たな年を迎えることとなりました。

わが国は「新成長戦略」や「国内投資促進プログラム」を確実に実行することによって、中小企業自らが環境・エネルギー技術の高度化・健康・医療・介護サービスの高付加価値化、海外市場への販路開拓等に積極的に取り組むことによって、新たな需要を生み出し、一刻も早くこのデフレから脱却しなければなりません。

政府は昨年6月に「中小企業憲章」を閣議決定し、新たに中小企業政策の基本方針を定め、「中小企業組合、業種間連携などの取り組みを支援し、力の発揮を増幅する」とことを基本原則の一つとして位置付けました。中小企業は、新たな成長分野や地域活力の再生に向けて果敢に挑戦し、雇用の創出に努めるとともに、持てる力を組合等連携組織に結集し、社会的役割を果たしていくことが期待されています。何と云っても、我が国の産業、雇用、生活を支えているのは、中小企業であります。国の礎たる中小企業がしっかり立ち上がっていくことが、今の我が国にとって何より大切であります。

今年、大企業の海外進出やTPPへの参加に

向けた動きが加速化するなどグローバル化という大波が押し寄せてくることと見られます。全国中央会も創立55周年を迎える節目の年となります。また、全国大会では私の地元である愛知県で開催されます。積極的に中小企業の声をお聞きし、その意見を政府首脳に届け、中小企業振興の強化を訴えて参ります。

今年こそは、組合等連携組織に結集した多くの関係者から、新たな成長の動きを実感できたという声がかかる年となります。粉骨砕身努力することを誓い申し上げますとともに、皆様の多幸をご祈念申し上げます。私の年頭のご挨拶と致します。

以前、紙関連業界の方から「古紙が今日のような国際的な輸出商品になるなんて想像外だった」という言葉を聞いたことがあります。しかし、現在は約500万トンもの古紙が中国を中心としたアジア各国に輸出され、わが国の大量リサイクルが循環しているのが現状です。

また、2010年は出版不況や紙媒体の不振が

いわれ、一方で、電子書籍の時代の到来が喧伝されました。アナログ人間を自認する私自身は、普段から最小限しか小さな端末で情報を読むことはなく、世界の情勢を知るには新聞が不可欠です。本も身近で大事な存在です。こそできる方法で「子供たちの未来に向けた古紙循環システム」と情報提供や普及啓発活動をし、国、行政や関連団体などとシンポジウムや提言活動を行ってきた18年間で、ある程度の役割を果たした面もあると思えます。

変貌する社会のなかで古紙ネットも大きな転換

えませんが、電子書籍ばかりの社会なんて、想像ができません。時代は動いていきます。

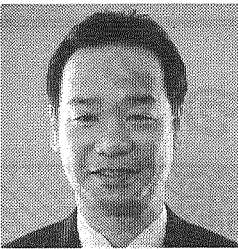
1993年4月に古紙ネットはスタート、利害に無縁な市民団体だからこそできる方法で「子供たちの未来に向けた古紙循環システム」と情報提供や普及啓発活動をし、国、行政や関連団体などとシンポジウムや提言活動を行ってきた18年間で、ある程度の役割を果たした面もあると思えます。

御礼とお詫び
この度は、持ち去り古紙の流通阻止運動にご賛同を賜りありがとうございました。ご協力依頼文の発送にあたりましては、日資連と全原連両団体に加盟の事業者の皆様に対して重複しての発送となりご迷惑をお掛けいたしました事、深くお詫び申し上げます。

なお、引き続き賛同書の返信を受け付けておりますのでご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アジア版循環型社会を推進

(社)日本鉄リサイクル工業会 中辻恒文 会長



新年あけましておめでとうございます。昨年は(社)日本鉄リサイクル工業会の活動に対してご理解とご協力を賜りまして、理事を厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は鉄スクラップ発生量が激減する環境下で業界各社は大変な経営努力を行って参りました。この努力は所謂

ヤード会社だけに限らず、集荷業務を担っておられる各社も同様のご努力をされ、業界全体としてコスト削減と同時に業の付加価値向上にご尽力されたことと思います。

一昨年度との比較で申し上げると、減少した数量を所与の条件として経営に取り組んだ事が昨年度の大きな特徴であるかと存じます。本年も量的なものには期待できませんが、継続した経営努力によって我々の業界は維持発展出来るかと確信しています。

今年の大きな課題は、

鉄リサイクル業に限らず、全ての再生資源業界は今後どのような方向に成長して行くべきか、であるかと存じます。

工業会活動の方向性として「アジアリサイクルシステムの発信基地」を目標致しておりますが、その点でも昨年度は大きな成果がありました。中国(CAMU)、韓国(KOSA)、台湾(TSA)、欧(BIR)、米(ISRI)など世界のリサイクル主要団体、機関とのセミナーや交流を展開した上で、これら団体の会長を横浜に招聘し

「国際シンポジウムを開催しました。更にタイ・ベトナムなど今後は東南アジア方面との交流も充実させて行く所存です。このような活動を通じて、アジア諸国では早急に環境保全と両立する資源リサイクルシステムの構築が必要であることを痛感します。日本のリサイクル制度は確固とした法体系が存在し、個別のリサイクルシステムも充実しています。実務に携わる各リサイクル企業の意識レベルも高いと自負しています。実際にリサイクルの国際セミナーにおいてアジア各国から日本に対して、日本システムの紹介が数多くございました。これは工業会が「発信

基地」となる要望がアジアから寄せられていると理解しており、日本で我々が実施してきた循環型社会推進の実務をアジアに展開すべき時代に入ったとも捉えています。アジア版循環型社会推進の時代とも表現出来るでしょう。

日本がこの分野で果たすべき役割には大きな期待が寄せられています。鉄リサイクルに限らず、全ての再生資源の適切な国際循環は今後益々推進されると思えます。その実現に向けて今年も鉄リサイクル工業会は前進しますようお願ひ申し上げます。

昨年11月の認定審査委員会後で、日資連の有志と会食の機会が取れ、この1年間を振り返りました。昨年4月まで、勤務する大学の在外研究で1年間英国住まいであったためか、かの国の生活事情も話題になりました。英国も、廃棄物の処理に

窮していることと変わりがなく、意外と感じられた方もおられた様子でした。かつて、石油危機に端を発したエネルギー供給不足は、高度経済成長の道をひた走りしたわが国を震撼させました。1970年代は、天然資源が有限であることを知り、大きな転換期を迎えました。それから、およそ40年間を経て、何が変わったのでしょうか。人々の関心の物的な豊かさを追求する

新規加入の促進が、ますます大切になります。それだけ、会員皆様のご理解とご協力が何よりも欠かせません。業界標準を独自に設け、当団体の存在意義を内外から認められるところになったことは、大きな成果です。次にこの成果を共有・拡充する道をたどることが求められます。資源再生のプロとは、そういう使命を追い求める存在です。時に大きく、またある時は小さいながらも着実に歩を進める積み重ねが業界標準の共有の輪が広がります。新年に当たり、ご多幸を節に念じつつ皆様のご健康とご発展を心より祈念します。

「資源再生のプロをグロイバル」

認定審査委員会委員長 毒島 龍一



窮していることと変わりがなく、意外と感じられた方もおられた様子でした。かつて、石油危機に端を発したエネルギー供給不足は、高度経済成長の道をひた走りしたわが国を震撼させました。1970年代は、天然資源が有限であることを知り、大きな転換期を迎えました。それから、およそ40年間を経て、何が変わったのでしょうか。人々の関心の物的な豊かさを追求する

音に認めておられます。よく言われるように、人間は、ひとりでは生きられませんので、コミュニケーションを形成します。またこれをめぐって新たな問題も生まれます。人間が承らえてこられたのは、これらの問題に対処できることです。

果たして、これからはという、やはり同様な姿勢と行動が求められます。日資連さんが、そのさがけとなり着手した「認定審査委員会」も、その一つです。資源再生に取り組みと会員が900を超え、これからさらなる組織の充実と増強をはかるべく、飛躍が期待されます。更新手続きや

この度は、持ち去り古紙の流通阻止運動にご賛同を賜りありがとうございました。ご協力依頼文の発送にあたりましては、日資連と全原連両団体に加盟の事業者の皆様に対して重複しての発送となりご迷惑をお掛けいたしました事、深くお詫び申し上げます。

なお、引き続き賛同書の返信を受け付けておりますのでご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発生激減に挑む年

東北六県再生資源組合連合会 会長 田中 義信



この難局に対処しなければなりません。我が国はもはや劇的な経済成長を成し遂げることは不可能であります。この先、長く続くと思われる低成長社会において、再生資源

業、リサイクル業はどうなるのか、我々の立ち位置を確保するための闘いをしっかりと成し遂げなければなりません。幸いにもここ数年間の間に積み上げてきた業界のプロパ

ティともいえるべき成果が東北資連には、けっこうある。これを業界全体のプロパティとして位置づけ、発生激減に対応し得る新しい商品を送り出したいと考えています。

東北資連は日資連加盟の全国の諸兄と共にレベルの高い活動を行ないたい。東北資連も微力ながらその一翼を担わせていただくことを申し上げます。

協調の精神で難局に臨み

北海道地区地区長 佐々木 秀美



たような実感がありません。さて、どこの地域でも同様だと思いますが、われわれが回収する再生資源が品目を問わず減っています。この事態はおそらく一時的なものではなく、長期に渡って進むと見られています。この時

期北海道は、深い雪のなかで、厳しい現場作業に

なります。大雪の日に、回収先で雪に埋まると、脱出するためにレッカー車を頼み、さらに別トラックを差し向けなければなりません。そんな冬が12月中旬から3月中旬までのおよそ3カ月続きます(温暖化現象が顕著になる前は、もう1カ月長かった)

では昨年10月に1都6県の代表者会議を開催、持ち去り問題や各県の抱える諸問題、関資連がこれらに連携し発展的かつ前向きに取り組むかが討議され、これらの問題の解決のため代表者会議の継続が決定されています。最後になりますが皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、この1年が皆様にとって良い年でありますことを祈念して新年の挨拶と致します。

持去り問題解決に向け

関東資源回収組合連合会 会長 星本 昭次



心よりお礼申し上げます。昨年を振り返ってみれば長引く不況による消費低迷は私達再生資源業界にも多大なる影響を与え、古紙や鉄スクラップでは市中の発生量が大幅に減少してしまいました。

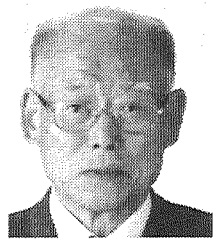
さらに、激減した資源物確保の動きは、今まででは考えもつかなかった回収方式を生み出し、日々

進化を続けています。しかし、多様化する回収システムの中には、持ち去り行為に代表されるようなコンプライアンスを担保出来ないようなシステムも存在し、持ち去り問題の解決とともにこれから業界が取り組んでゆかねばならない課題だと認識しています。

このような中、関資連

故金子元会長を偲ぶ

四国地区地区長 金田 浩盟



23日、東京大田区池上本門寺に於いて全国から多数の弔問客が参列の中、しめやかに行われました。思えば日資連組織は金子氏の元に、全国組織結成目標に日夜を惜しまぬ情熱を持って東北地方では高橋文吉氏、中国地方では平林久一氏(現平林金属社長)、故田中勝氏(倉敷田中商會元社長、四国では私の郷土愛媛の故高橋勇氏、また現日資連顧問の太田原秀義氏(資源新報社主)等々の方々のご奮闘により昭和48年7月設立されました。

当時の金子会長のご理解ご指導が、当日の氏のご霊前で私の脳裏を走り馬灯のように走りました。結成中の全国大会を振り返りますと、第4回(昭和51年)千代田公会堂大会を境に阻止の地方への周知と拡大のため、第5回(昭和52年)香川県琴

経済情勢回復に期待

近畿地区地区長 山原 丈之



国内景気低迷の中、よく事業にがんばっておられること感激しております。国の経済を早く立ち直さなければ、雇用問題など回復は見えません。奈良では、平成1300年も昨年10月に終わり、県内でも予想以上の観望とさせていただきます。

者がお越しになって、少しは景気対策になったと聞いております。これを機に、県内景気がよくなれば幸いです。今年も会員皆様の健康と繁栄を願って私の挨拶とさせていただきます。



段ボールのリサイクルは次世代の環境作り!!

循環型社会に最適な包装資材として今後ともリサイクルの推進・向上に努めます。

段ボールリサイクル協議会

リサイクルマークの普及促進中!!

資料問い合わせは事務局へ
詳細については段ボールリサイクル協議会のホームページ
(http://www.danrikyo.jp)で閲覧できます

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館
(全国段ボール工業組合連合会内)
TEL03-3248-4853 FAX03-5550-2101



在りし日の故金子名誉会長
第15回日資連総会・浜松大会にて

全国会員の英知結集し

沖縄地区地区長 玉城 栄功



新年あけましておめでとうございます。皆様には清々しい新年をお迎えの事とお慶び申

上げます。さて、沖縄県ゼロエミッション事業協同組合として昨年を振り返って見ますと、日資連全国大会開催の大会を頂き6月25日読谷村在の沖縄残波岬ロイヤルホテルで、150名余りのご来賓、並びに組合員のご参加を得て盛大に開催することが出

来ました。大会開催の大任を与えて頂いた日資連の役員及事務局の方々に感謝すると同時に自信に繋がった事お礼申し上げます。今年度の全国大会は群馬県の設置担当で開催される事になっておりますが、大会が成功裡に終わることを祈念申し上げます。

活発な意見交換を

青年部長 武井 大輔



新年あけましておめでとうございます。

日頃より日資連青年部活動に対しましてご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。現在、日資連青年部は歴代の青年部長が築いたネットワークを更に拡大し、全国の青年部員達により多くの情報を発信できるように努めます。

有明興業(株)を視察

レアメタルテーマに研修会

日本再生資源事業協同組合連合会(代表上岡克己会長)の平成22年度研修会が吉川太郎東資協理

された。最初の講義は、経済産業省リサイクル推進課の岡田俊郎課長から「レアアースの総合対策」とリサイクルについて「古紙リサイクルについて」をテーマに、先の尖閣諸島での事件における日中関係の中でも問題となったレアアース資源の安定的確保を含めた総合対策について講演して頂いた。その中で岡田課長は、レアアースのリサイクルの必要性に触れ、「早急に体制整備を含めた諸問題の解決を図ることが必要」と語った。

最後に株式会社リサイクルワン 環境コンサルタントの宮川英樹氏から「万博後の中国の経済成長予測等の非鉄金属の需給予測」というテーマで講演。中国の環境リサイクルビジネスに対する政策や法規制、又、その現状や実例、先の見通しについて説明して頂いた。

この研修会は昨年度に引き続き全国中小企業の補助事業(中小企業活路開拓調査・実現化事業(連合会・全国組合等研修事業))として「資源流通の国際化の中、レアメタルと共に再生資源業界の主要金属を題材に検証し、所属員に今後のビジネス対応の総合的知識を付与すること」を目的として開催されたもの。

また、古紙リサイクルについては、古紙流通経路の把握、回収率・利用率の需給ギャップ、回収方法のコスト比較などの項目ごとに重要点を挙げたのち①行政回収の在り方を見直すべきではない

必要があり、その回収方法については「廃棄物の分別回収品目」的な考え方が必要である。柔軟に検討する必要があるように感じた。

「新年号は1月中旬に出たい」と偉そうな事を口走ったのは、いつの間にか年明けの忙しさに追いついてしまっている。休みに戻ってしまっている。現時点(1月6日)では、相当危うい状況であると思われ、事務局には気を配らせている事と思う。

栃木県リサイクル協同組合連合会
 会長 星本 昭次
 〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町 257
 TEL 028(652)0245・FAX 028(652)0736

群馬県再生資源事業協同組合連合会
 会長 上岡 克己
 〒371-0857 群馬県前橋市高井町 1-26-3
 TEL 0272(53)7291・FAX 0272(54)6221

埼玉県再生資源事業協同組合
 理事長 細田 益弘
 〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 2-156-1
 エクセルハイム103
 TEL 048(607)7401・FAX 048(607)7402

千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会
 会長 熊倉 一夫
 〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-22-6
 富士ビル 5階A号室
 TEL 043(227)8273・FAX 043(227)2033

東京都資源回収事業協同組合
 理事長 吉川 太郎
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-21-1
 TEL 03(3263)3676・FAX 03(3263)3679

神奈川県資源回収商業協同組合
 理事長 小松 敏和
 〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-40-17
 モンテパルデ 横浜 3 1 1 号室
 TEL 045(313)6100・FAX 045(313)6161

奈良県資源回収事業協同組合
 理事長 山原文 之
 〒635-0095 奈良県大和高田市大中 106-2
 経済会館 6階
 TEL 0745(23)2266・FAX 0745(23)2285

岡山県資源リサイクル事業協同組合連合会
 会長 平林 久一
 〒700-0973 岡山県岡山市下中野 347-104
 ヒラキンビル内
 TEL 086(246)0011・FAX 086(246)1100

新宿区リサイクル事業協同組合
 理事長 佐藤 一郎
 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-12
 ㈱小池商店本社内
 TEL 03(5363)3196・FAX 03(5336)3197